

I B A だ よ り

第15号

《茨城県吹奏楽指導者協会》

令和2年9月22日発行

発行人 茨城県吹奏楽指導者協会会長 梶原征剛
事務局 水戸市緑町1-10-26 島田博正

ごあいさつ

茨城県吹奏楽指導者協会 会長 梶原 征剛

新型コロナウィルスが猛威を振るう今日、「第23回ソロコンテストいばらき」が開催できるか不安でしたが、今年もまた、「(公財) げんでん ふれあい茨城財団」のご協力を得て、例年通りに行うことといたしました。しかし、コロナウィルスの状況には不確定な点が多くあり、今後の推移を見守っていきたいと考えております。

さて、話は変わりますが、私はこのコンテストの審査員を長く務めて来ましたが、これまで、皆さん方の演奏を聴いた感想を、この「I B A だ よ り」に載せてきました。今回は練習方法について少しお話をしたいと思います。

皆さん方は新しい楽譜を手に取ると早く音を出したくて、すぐに楽器を持ち出してくるのではないかでしょうか・・・? だが、ちょっと待ってください。その前に、先ず、楽譜を何度も良く見ることを忘れないでください。ここでは音符の形・状態（音域、フレージングなど）や休符、また、発想記号など楽譜に書かれている多くの音楽用語を正しく理解することから始めては、如何でしょうか。

それから、楽器を手にして楽曲の構成などを考えながら練習を続けることで、音楽の全体像がおぼろげながらも見えてくるでしょう。しかし、この時点では、まだ、音楽が完成したとはとても言えません。

さらに、この全体像を土台として、何度も試行錯誤を繰り返しながら、自分の心の中から沸きあがってくる熱い気持ちを、音符の一つひとつに注ぎ込んで自分の音楽をつくってください。そうすることで、音楽に対する表現のやり方にも余裕が出て来て、楽譜に書かれていらない音符やフレージング、旋律などの楽譜全体にまで神経が行き届いて、新たな創作意欲が湧いてくるものです。ここまでくれば、完成も間近でしょう。後は、素晴らしい音楽の完成へ一直線です。

次に、皆さん方は自分の気持ちを音楽で表現しようとする時、どうしてよいか分からぬことがありますか・・・? また、このように表したいと思っても、技術が伴わないことはありませんか・・・? こんな時、とても大切なことがあります。それは、自分が思うように出来ないからと言って、やらないのではなく、何度も繰り返し練習を続けることこそ、それを解決してくれる唯一の手段なのです。また、これは音楽が持っている、何か（本質・真髄）に近づく方法でもあります。このことは、私の経験からも声を大きくして申し上げたいのです。

皆さん方はまだ音楽の経験は浅いし未熟ですが、今、接している音楽が、将来、自分の貴重な財産となることは間違ひありません。どうぞ、これからも、今まで以上に音楽と向き合って欲しいと、私は心から願っています。

以上、申し上げたことはごく当たり前のことで、決して目新しいことではありません。しかし、古今東西、昔からよく言われてきた、行き詰まつたら楽譜に戻れと言う言葉は演奏に当たっての原点なのです。

(茨城大学 名誉教授)

「初めての経験を通して」

茨城県立水戸第一高等学校 藤枝 麻里花

この度は、関東甲信越大会でこのような素晴らしい賞を頂き、大変光栄に思います。私は茨城県の代表として、中学一、二年生、そして高校一年生の時にこの大会に出場させていただきましたが、一度も関東甲信越大会の代表となることはできず、とても悔しい結果に終わりました。その悔しさから、自分の音楽に対する態度を見つめ直し、今回、全国大会出場への最後の望みをかけて挑戦しました。

今回演奏した「ソナタ・アパッショナータ」は、自分にとって人生初の無伴奏の曲でした。この曲は何度も静と動を繰り返し、情熱(アパッショナータ)、温かさ、冷静さなど、人の感情の変化がそのまま譜面化されたような、技術だけでなく豊かな表現力が必要となる難しい曲でした。初めのうちはただ楽譜通りに練習していましたが、それだけでは味気ない演奏になってしまふことに気づき、演奏の表現の幅を広げるために、間の取り方、フレーズ感、強弱、曲の雰囲気の変化など、楽譜に書いてあることから考え、自分なりに工夫して、それが自然な流れになるよう多くの時間を練習に費やしました。本番では、自分だけではなく相手にも伝わる演奏をしようと心がけました。

指導していただいた先生方、家族をはじめ、多くの方々に支えて頂いたことに心から感謝しています。ありがとうございました。

今回の曲を通して、表現力の大切さなど様々なことを学ぶことが出来ました。全国大会は中止になってしまいましたが、この経験を糧に、これからも自分の表現の幅をより広げられるよう努力していきます。

【令和元年度ソロコンテスト関東甲信越大会高校生の部第2位受賞、
全日本大会出場権獲得】

「自分らしく」

守谷市立御所ヶ丘中学校 福島 司咲

今回、茨城県代表として関東甲信越大会に出場し、審査員飯島和久賞をいただくことができ、とても嬉しく思います。

私は今回演奏した「ザ・ラスト・カントリー」を仕上げるにあたり、いくつもの壁にぶつかってきました。その度にたくさんの人たちに支えてもらい、私の周りには応援してくださる大勢の人がいることに改めて気付きました。

「自分らしく」

深く考えすぎて知らず知らずのうちに自分を見失ってしまったときに、自分の思うように演奏ができなくなってしまった。そんな時、先生が私に掛けてくださった言葉です。私はこの言葉で私の心を苦しめていた何かから解放され、心に一筋の光が差し込んだような気持ちになり、ハッとさせられました。この言葉を掛けていただいた後、私は久しぶりに楽器を吹くのが楽しくなり、時間が経つのも忘れ、大会に向けて夢中で練習したのを今でもはっきりと覚えています。そして、関東甲信越大会当日のステージでは、伴奏しながらいつも見守ってくれた母とともに一番楽しみ、自分らしい演奏をすることができました。たくさんの涙を流し、人一倍努力を重ねてきた分、本番の4分間の演奏時間はとても短く、あっという間に感じました。

この経験を通して私は、失敗を怖がらずに自分の思うように楽器を吹くことや、楽しんで演奏することが何よりも大切だということを先生の言葉から学びました。

今回のソロコンテストで学んだたくさんのこと들을忘れることなく、これからもっと練習を重ね、「自分らしく」素敵なお手本ができるように努力していきたいと思います。

最後に、このような貴重な経験をさせていただき、感謝しています。本当にありがとうございました。

【令和元年度ソロコンテスト関東甲信越大会中学生の部 審査員飯島和久賞受賞】

「ソロコンで得たもの」

常総市立水海道中学校
現 常総学院高等学校 諸野 優輝

僕がソロコンに参加しようと思った一番の理由は、自分の楽器技術のスキルアップをしたかったからです。高校では強豪校である常総学院高等学校の吹奏楽部に入部して吹奏楽を続けることにしたのですが、自分にはまだまだ稚拙なところがたくさんあり、楽器の練習はいくらしても足りないので、中学では部活を一旦仮引退した後ですが顧問の先生にお願いして練習を再開することにしました。

今回僕が挑戦することにしたのは「小さなチャルダッシュ」という曲です。この曲は、自分の足りてない歌う力や連符の指回しなどの底上げが出来て、しかも自分の好みでした。そのため、曲選びには時間がかかりましたがこの曲を聞いた時にはほぼ即決でした。

曲の練習を開始したのは12月の上旬です。ひたすらテンポを遅くして何回も何回も練習しました。メトロノームを一個ずらしただけで出来なくなっちゃうからまたちょっと元に戻して…。そんなことを繰り返して、録音審査の〆切である12月下旬にはインテンポでなんとか誤魔化せる程度は吹けるようになっていました。本当はちゃんと吹けないとダメですけどね…。指導できる少ない時間の合間を縫って顧問の先生に練習を見てもらって、伴奏者と共にいろいろ悩んで、関東甲信越大会で、優秀賞と審査員小串寿久賞をいただきました。

今回僕がソロコンに出たことによって得た恩恵は本当に大きいです。おかげで指も以前に比べるとかなり回るようになり、表現力も愕然と上りました。また、人前で演奏する時の度胸が3倍くらいに増えた気がします。ソロコンには抵抗があるという人はたくさんいると思いますが、どんな結果になろうとソロコンに参加することは必ず価値のあるものになると僕は思います。

【令和元年度ソロコンテスト関東甲信越大会中学生の部 審査員小串俊寿賞受賞】

JBA関東甲信越支部「第18回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」

JBA茨城県部会事務局長 吉井 忍

新型コロナウィルスによる感染拡大が危惧される中、感染防止対策を講じながらJBA関東甲信越支部「第18回中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト」が令和2年2月23日(日)国立音楽大学オーケストラスタジオにおいて開催されました。茨城からは「第22回ソロコンテストいばらき」で代表になった中学生4名、高校生4名が出場しました。各県の代表者数は昨年まで中学生5名、高校生5名でしたが、今年度から新潟県部会が正式に参加したため各県代表枠がそれぞれ4名になりました。この大会は、東京、神奈川、千葉、埼玉、栃木、茨城、山梨、新潟(1都7県)の代表64名が参加する全国でもレベルが高い大会です。今大会も、それぞれの楽器で高い音楽性と演奏技術を披露し、白熱した演奏会となりました。

茨城県の出場者では、県立水戸第一高等学校2年の藤枝麻里花さん(フルート)が、高い音楽性と見事な奏法で第2位となり全日本ソロコンテストへの出場権を獲得しました。中学生の部では、守谷市立御所ヶ丘中学校2年の福島司咲さん(アルト・サクソフォン)が飯島和久審査員賞を、常総市立水海道中学校3年の諸野優輝さん(アルト・サクソフォン)が小串俊寿審査員賞を受賞しました。そして出場された方全員が、日頃の練習の成果を発揮して素晴らしい演奏を披露しました。

3月になってさらに新型コロナウィルスの感染拡大が危惧されましたので、残念ながら全日本ソロコンテストは中止となりましたが、本大会で演奏された8名の方々は茨城県の代表として音楽的にも技術的にもレベルの高い演奏を披露してくださいました。素晴らしい演奏をありがとうございました。

<< 事務局より >>

I B A事務局長 島田 博正

今年度のソロコンテストいばらき日程

○ソロコンテスト一次審査 R3.1/ 9(土)・10(日), 16(土)・17(日)

ひたちなか市文化会館他(予定)

○ソロコンテスト県大会 R3.2/13(土)・14(日)

東海村東海文化センター(決定)

昨年度は、県内5地区から564名の一次審査参加者がありました。県大会では、小学生9名、中学生69名、高校生59名がすばらしい演奏をホールいっぱいに響かせ、関東甲信越支部大会に中学生4名・高校生4名が推薦されました。関東甲信越大会では、高校生の部で藤枝麻里花さん(F1)が第2位を受賞し、中学生の部では福島司咲さん(A.Sax)が、飯島和久賞を、諸野優輝さん(A.Sax)が小串俊寿賞をそれぞれ受賞するなど、大きな成果をあげました。今年度も多くの皆さんのが参加され、すばらしい演奏を聴かせて下さることを期待しています。

CDの処理について

昨年度も各学校から送られたCDの取り扱いに間違いがいくつかありました。地区事務局担当者に送る際一次審査参加要項の4を必ず確認のうえ提出ください。また、書類等の提出についても、参加要項を確認いただき間違いの無いようご協力をお願ひいたします。

お知らせ

県大会の会場が、昨年度の「大洗文化センター」から「東海文化センター」にかわります。所在地並びに電話番号等は、下記のとおりです。

所在地：〒319-1115 茨城県那珂郡東海村船場768

TEL:029-282-8511 <http://www.tokai-cs.or.jp>

また、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮した運営を検討しています。現在も県大会の開催については不確定な状況が続いているおり、今後とも会場との打合せを重ねて安全対策を工夫しながら実施方法を検討し、大会が計画通り無事実施できるよう努力していきたいと考えております。

入場制限（三密の回避）やマスク着用・体温検査等を含め、参加ならびに来場される皆様には、ご協力をお願いすることが予想されます。なにとぞソロコンテストのスムーズな運営にご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

令和元年度 第22回ソロコンテストいばらき 一次審査参加者数・県大会出場状況

| | 一次審査 | 県大会 |
|-------------|------|-----|
| 小 学 生 | 県央 | 15 |
| | 県東 | |
| | 県南 | |
| | 県西 | 1 |
| | 県北 | |
| | 計 | 16 |

| | 一次審査 | 県大会 |
|-------------|------|-----|
| 中 学 生 | 県央 | 89 |
| | 県東 | 53 |
| | 県南 | 67 |
| | 県西 | 114 |
| | 県北 | 63 |
| | 計 | 386 |

| | 一次審査 | 県大会 |
|-------------|------|-----|
| 高 校 生 | 県央 | 49 |
| | 県東 | 18 |
| | 県南 | 36 |
| | 県西 | 41 |
| | 県北 | 18 |
| | 計 | 162 |

「げんぐん財団」は
ふれあいとゆとりある
地域づくりに貢献します

(公財) げんぐん ふれあい茨城財団

日本原子力発電(株) 東海事業本部 地域共生部内(東海村白方1-1)
茨城事務所内(水戸市笠原町978-25)TEL. 029-287-1251
TEL. 029-301-1511